

■滝川一益 **戦国武将。織田信長家臣で、伊勢方面の攻略に活躍、関東申次など万能ぶりを發揮して、天下統一に貢献した。**
たきがわかずます(いちます)
・ ・ ・ ・ ・ 1525＝ 近江国甲賀郡の国人滝川一勝(資清)の次男に生まれたというのが、定かでなく、織田信長に仕えるまでの半生が不明なため、甲賀出身ということで、忍者の家系であったという説は別として、のちに、志摩の国人九鬼嘉隆が織田信長に仕官する際に仲介したこと、婿の滝川雄利が伊勢国司北畠氏一族木造氏の出身であること、長年、伊勢攻略を担当し、攻略後も北伊勢に広大な所領を与えられていることなどから、伊勢あるいは志摩出身という説には説得力がある。諱についても、「寛永諸家系図伝」「寛政重修諸家」で“いちます”とあり、“一”を通字とした子孫も、本家は代々“いち”と読んでいることなどからも、特異な出自であった可能性も否定できない。後年、水戸藩の佐々宗淳から織田長清に送られた書状には、'それなりに由緒ある家の出だった'が、博打を好んで不行跡を重ねて追放され、尾張津島の知人のところに身を寄せた'とあるらしい。

・ ・ ・ ・ ・ 1534＝ **9歳**：

ザビエル来日 1549＝24歳：

大友布教許可1552＝**27歳**：信長の父信秀が急逝して、織田家の相続争いとなるが、「寛永諸家系図伝」によれば、鉄砲の腕前によって織田家に仕官したらしく、「信長公記」首巻に、信長が踊りを興行した際、滝川左近衆が餓鬼の役を務めたという記述もあることから、

大陸邦民事件1555＝30歳： **信長が尾張一国を支配することになった頃には、家臣になっていたと思われる。**
この間、自ら同様出自が定かでないながら、頭角を現し始めた豊臣秀吉とライバルになって行く。

・ ・ ・ ・ ・ 1557＝32歳： この頃誕生した信長の子信忠の乳母になり、やがて信長の側室になった慈徳院が、のちに、妙心寺56世になる一益の子九天宗瑞の妹であったとされることも裏付けになろう(年齢的に疑問あるが)。

桶狭間の戦い・1560＝35歳： 信長に、'桑名長島の地を得て、伊勢国の北畠氏や関氏に備えること'を進言し、尾張国荷ノ上の土豪で長島城主の服部友貞の資金によって蟹江城を構築、やがて友貞を放逐して蟹江城主となったともいう。

川中島最激戦1561＝**36歳**：
大村長崎開港1562＝37歳： ***信長と(松平)徳川家康との間の清洲同盟が締結にあたり、交渉能力が認められて、重臣となり、**

織田信長入京1568＝43歳： 前年からの2度にわたる **織田家の伊勢国攻略の際には、攻略の先鋒として、北勢四十八家を滅ぼすことに貢献。戦後は安濃津・浜見・木造の三城を守備することを命じられ、**

石山合戦始・1570＝**45歳**： **本願寺の反信長蜂起による石山合戦の開始に呼応して、長島一向一揆となり、信長の弟信興が小木江城で討ちとられる事態になるが、以後、桑名城に籠って、一揆と対峙しつつ、尾張国の守備役を担い、**

室町幕府滅亡1573＝48歳： 一乗谷城の戦いに参戦。
長島一揆鎮圧1574＝49歳： 志摩国の九鬼嘉隆と共に水軍を率いて織田軍を援護して、 ***長島一向一揆鎮圧に貢献し、長島城及び、北伊勢8郡のうちの5郡を拝領した後、**

長篠の戦い・1575＝50歳： 長篠の戦いに参陣し、鉄砲隊の総指揮を執り、また、北畠家と連携して、越前一向一揆を攻略し、
安土城築城・1576＝51歳： 安土城建設が始まると、総奉行丹羽長秀の下で、工事の円滑化に貢献。天王寺合戦に参陣、
安土楽市楽座1577＝52歳： 紀州征伐にも参陣し、
上杉謙信没・1578＝53歳： 第二次木津川口の戦いでは、九鬼嘉隆率いる黒船6隻と共に、白船1隻で出陣するなど、
安土教会許可1579＝**54歳**： 有岡城の守備を崩壊させて、石山本願寺への兵糧や武器の搬入をできないようにして、
石山合戦終・1580＝55歳： 筆頭家老佐久間信盛が追放されて、彼がやっていた仕事が織田家諸将に割り振られるなか、法主顕如をして、信長に降伏せしめ、 ***10年余り続いた石山合戦を終結させる一方、小田原城主北条氏政が信長に使者を送ってきた際、関東衆の申次を命ぜられて、後北条氏の外交を一手に引き受けるなどしながら、**

パリーヤ/謁見 1581＝56歳： 京都妙心寺内に、自らの子九天宗瑞を開祖として暘谷庵(のち長興院)を起こした。氏政が信長に鷹を献上した際にも申次を務めている。伊賀攻めにも参陣する一方、

本能寺の変・1582＝57歳： ***甲州征伐で、信長の嫡男信忠が信濃国へ侵攻した際に、軍監を務め、武田勝頼を天目山麓で討ち取り、上野国一国、及び隣接する武田遺領の信濃国2郡を拝領して、厩橋城主になるも、領地よりも茶器「珠光小茄子」を所望したが叶わなかったという逸話があり、信長は名馬「海老鹿毛」と短刀を下賜して、4年前に死去した上杉謙信に代わる関東管領にした時まで、遊軍として各地を転戦し、信長の天下取りに貢献し続けたが、本能寺の変が勃発。信長の死に乗じて、小田原の北条氏直らが率いる北条軍が上野国倉賀野へ侵攻してきたのを、和田に陣を構えて迎え撃つ間、清洲会議で、(羽柴)豊臣秀吉信長の嫡孫三法師を擁立して、織田家の後継者となることが決まり、信長の三男信孝を支援していた柴田勝家の対立に発展、**

賤ヶ岳の戦い・1583＝58歳： **賤ヶ岳の戦いに柴田方として参戦するも、羽柴軍に敗れ、勝家が自害、続いて織田信孝も自害するなか、長島城に籠城して孤軍奮闘するも降伏。所領をすべて没収され、妙心寺において剃髪し、越前国に蟄居、**

長久手の戦い・1584＝59歳： **織田信雄が徳川家康と共に反秀吉の兵を挙げ、小牧・長久手の戦いが勃発すると、秀吉の招集に応じて参戦するが、戦後、わずかな所領を与えられ、再び越前国で蟄居の身となり、**

豊臣秀吉関白1585＝60歳： 梶原政景への書状で、秀吉による小田原征伐を予告して、
秀吉太政大臣1586＝61歳： **没した。**